

令和4年10月22日（土）ツツザキヤマジノギク保全活動記録

令和4年10月22日（土）秋晴れで天候もよく観察会日和となったこの日、午前8時に天竜川河川敷保全地に現地に50名が参集し観察会及び保全地の整備活動を実施しました。

これに先立って、10月15日にはボランティア20名による草刈り作業を行い、河川敷に駐車も利用可能となり、無事観察会が実施できる状態で参加者を迎えました。

今回、町の小学生、中学生、高校生をはじめ、遠路、県外から活動に駆けつけていただいた方もおられました。加えて、町内で他の希少動物の研究をされている大学関係者や国土交通省天竜川上流工事事務所の方々、そして松川町のボランティアの皆様など幅広い分野の方々が大勢集まっていただきました。



最初に、保全活動の取り組みの説明と観察会を実施しました。

10年ほどの歳月を経て、広い礫河原にアカシアや外来植物が生い茂った写真から、ツツザキヤマジノギクの自生地環境は常に変化し、他の植物との競争にさらされていること、また、近年の出水により、河川関係者等の協力を得ながら保全地を確保し取り組んでいること、ツツザキヤマジノギクの希少性や特徴など、参加者は現地でパネル等を見ながら講師の堤先生の説明を熱心に聴講していました。



その後、今年、わずかに残っているツツザキヤマジノギクの花を実際に観察しました。筒状の花弁の他にも、多様な種類の花弁が見られ、参加者は写真を撮るなど興味深く観察しました。



観察会の後、今年、種を蒔いた保全地の草取りを実施しました。

ツツザキヤマジノギクは2年草ですので今年、種を蒔いた場所には花は咲いていません。来年には、秋に花を咲かすことが期待されます。

今回、現地の状況から、種を蒔いただけで、除草など、一定の管理をしなければ、他の植物に覆われてしまう。そのため、多くの皆様の協力を得て、保全地（河川敷）の定期的な除草などの取り組みを実施していく必要性を感じました。



参加者同志は、交流を深め10年後、20年後にもツツザキヤマジノギクが松川町の天竜川河川敷に咲いている姿を想像し作業を終了しました。

今後とも多くの皆様のご協力とご参加をお願いします。

